

信仰奨励章について



記章のイメージ

「スカウト精神」に基づいたもの ⇒ スカウト章
ボーイスカウト部門を基準 ⇒ 金色
大自然をイメージ ⇒ 緑

信仰奨励章のねらい



- ボーイスカウト日本連盟では、
「それぞれの明確な信仰を持つことを奨励する」
ことから、宗教章が制定されています。
- 宗教章への取り組みは、
「宗教関係を育成団体とする団に所属するスカウト」
「富士章スカウトを目指すベンチャースカウト等」
の一部のスカウトに限られています。
- より多くのスカウトが宗教章取得への取り組みを
スムーズに進めるためにも、その前段階として、
“信仰奨励章” を制定しました。

信仰奨励章の願うもの



宗教と信仰の違いを考えよう！

- ・ 世界では、生活の中に宗教があります。

宗教は

“あなたの信ずる神様や仏様が存在し、
その教えに則って生活をしている” ことです。

- ・ 日本では、宗教と信仰が一つではない文化があります。

信仰は

“信ずる神様や仏様は分からないけど、
目に見えない働きによって生かされていると感じ、
人のために役に立とうと思える心を持つ” ことです。

信仰奨励章の願うもの



信仰心から明確な宗教への出会いへ

- 信仰心が高まると...
神様や仏様の存在がはっきりと分かり、自分にとって
ふさわしい宗教との出会いに繋がります。
- “**信仰奨励章**” は...
信仰心から宗教心へと繋がって行く過程を支援し、
“**信仰奨励章**” に取り組むことで、
宗教章へとつながることを願っています。

信仰奨励章の取り組み



“**信仰奨励章**” は、
特定の教宗派について取り扱うのではなく、
「信仰心を高揚し、ちかいとおきての実践をより深める」
ために、**スカウツオウン** の取り組みを重視します。

スカウツオウン を通じて、日常とスカウト活動の中で、
スカウトの信仰への導きを行うこと
を促す必要があります。

指導者は、率先して取得要件を実践することで、
信仰奨励章の意味するところを明確にできるようになります。

信仰奨励章取得要件



1. 初級以上のボーイスカウト、またはベンチャースカウトであること。
2. 隊集会やキャンプ・ハイキングでスカウトタウンに参加する。
3. スカウトタウンで自分ができる役割を果たし、ちかいとおきてを日常で実践したこと、感じたことを発表する。
4. 隊集会やキャンプ・ハイキングでのスカウトタウンで主要な役割を果たす。
5. 「アンノンスカウト」の逸話を調べ、適切な表現形式（劇、紙、芝居など）で隊の仲間や他の人々に伝え、自分の「日々の善行」の実践のようすについて話す。

信仰奨励章取得要件



6. 班で年間を通じて行える奉仕活動を考え、
隊長の指導のもとに実施する。
(ターゲットバッジ「近隣奉仕」5と共通)
7. 自分の家の宗教(派)か、自分の興味を持った宗教
(派)の宗教儀礼、宗教行事、またはスカウトタウン
に参加する。
8. 自分の家の宗教(派)か、自分の興味を持った宗教
(派)の教導職から信仰や宗教について話を聞く。
9. B-P 卿のラストメッセージを読んで、
班集会で話し合う。
(ターゲットバッジ「B-P」6と共通)

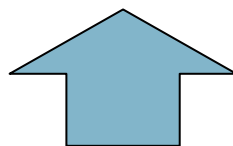
【第1段階】

取得要件2～4については、スカウトタウンを中心に取り上げています。



“スカウトタウン” とは・・・

教導職が中心に行う宗教儀礼(礼拝)ではなく、スカウトが自分たちで進める宗教儀礼(礼拝)または信仰心を高めるための礼拝のことです。



教導職が不在時の礼拝

【第1段階】

取得要件2～4については、スカウトタウンを中心に上げています。



“スカウトタウン” の実施方法・・・

スカウトタウンの中で一つのテーマを決め、自分ができることを約束するという形式をとります。

- ① “何が自分にできるか” 考え、
- ② 考えたことを “実施” し、
- ③ “一日を振り返る” 機会とします。

スカウトタウンの本来の形は、
「各教宗派で決められた礼拝」となります。

【第1段階】

取得要件2～4については、スカウトタウンを中心に上げています。



スカウトタウン進め方（例）

1. 黙想（しずかに目を閉じる時間）
2. 歌（心が落ち着く歌にする）
3. おきて唱和（活動テーマに合うおきてを一つ選ぶ）
4. B-Pの言葉
（B-Pの言葉や活動テーマに合った短い話し）
5. 発表
（活動の始めは自分ができること
活動の終わりは自分のできたことを発表する）
6. 黙とう
（祈りの時間。活動の始めなら自分ができることを
ちかい、活動の終わりなら自分のできたことに感謝する）

実施例は、「信仰奨励のためのスカウトハンドブック」を参考にして下さい。

スカウトオウンの一例

信仰奨励のためのスカウトハンドブックより(活動の前)

テーマ:さらに深めよう



1. 黙想 (しずかに目を閉じる)
2. ソング「わが旗かざし」
いざゆかんスカウト はるか遠くたゆまず わが旗かざし
めざす丘に進まん ゆく手 険しくとも ほがらかに歌いて
まことのしるべを 強く歩まん ラララ
3. おきて唱和 「スカウトは勇敢である」
(全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)
4. B-Pの言葉 題名「困難」
「困難な仕事に取り組まなければならない時は、それを助けてくれるよう神にお願いしなさい。そうすれば、神はあなたに力を与えてくれるだろう。しかし、それでもなお、あなた自身に取り組まなければならないことだ」
5. 一日の実践目標 (一人ひとりが今日一日、人のために何をするか発表する)
6. 黙とう (実践目標として発表したことをちかう)

スカウトオウンの一例

信仰奨励のためのスカウトハンドブックより(活動の後)

テーマ:さらに深めよう



1. 黙想 (しずかに目を閉じる)
2. ソング「ひとひの終わり」
 - ①星かげさやかに 静かに更ける 集いの喜び 歌うはうれし
 - ②名残りはつきねど まどいは果てぬ 今日のひとひの幸 静かに思う
3. おきて唱和 「スカウトは勇敢である」
(全員がスカウトサインをし、司会者がはじめに独唱し、その後全員で唱和)
4. B-Pの言葉 題名「困難」
「神は私たちが人生を幸福に楽しむよう、この世界に送られたものと私は信じている。幸福を手にする本当の方法は、他の人に幸福を与えることである」
5. 一日の実践目標 (一人ずつ何ができたか発表する)
6. 黙とう (実践目標を達成できたこと、無事に過ごすことができたことに感謝する)

【第1段階】

取得要件2～4については、スカウトタウンを中心に上げています。



【支援のポイント】

1. 隊長が主宰するものとし、5回程度の参加の実績をもって認定する。
2. 実践したことや感じたことの発表内容は、隊長だけではなく、班や隊の仲間にも認めてもらう。
3. スカウトタウンの場面や役割(司会・進行役等)については、隊長と相談しながら進める。

【第2段階】

取得要件5～6については、日々の善行や奉仕活動として実践することを取り上げています。



① 日々の善行と奉仕活動の考え方

B-Pは、

人は生まれつき善いことをするという本能を持っているとし、やり方さえ判れば、善行という仕事は本能を満たし、発達させるとしています。

それは、精神的な変化をもたらし、

何を得ることが出来るか ということから、

人生において私は何を与えることが出来るか

というものによって変わってくるとしています。

【第2段階】

取得要件5～6については、日々の善行や奉仕活動として実践することを取り上げています。



②神（仏）からいただいた贈り物

B-Pは、

一人ひとりには、神（仏）からいただいた資質を
持っており、それは他の人々に再び与えること
によって、神（仏）のために役立てる

ことが可能となるとしています。

そして、それは神のみ業を行うことになり、

幸福の意味を見いだすことにもなるとしています。

【第2段階】

取得要件5～6については、日々の善行や奉仕活動として実践することを取り上げています。



【支援のポイント】

1. 隊の仲間のほかには、保護者、地域の人々、カブスカウトやビーバースカウトなどでもよい。
2. 班がその奉仕活動が年間を通じて、継続できるものか、隊長として判断し、支援すること。

【第3段階】

取得要件7～8については、明確な宗教に触れることを取り上げています。



宗教儀礼や宗教行事などの形から入る

B-Pは、
最初からあまりに精神的なものを追及するより、
実際的な宗教活動から行うべきであるとし、
まずは形から入ることとしています。

そして、教導職から信仰や宗教についての話しを聞く
ことによって、神仏の存在を明確にしていきます。

【第3段階】

取得要件7～8については、明確な宗教に触れることを取り上げています。



【支援のポイント】

1. 少なくとも、複数回は参加することとし、その様子を感じ文などでまとめさせる。
2. お話を聞いた感想を感じ文などでまとめさせる。
3. 感想文については、ただよかった、つらかった、実施された内容だけではなく、**これから自分に何ができるか**なども書かせる。

【第4段階】

取得要件9は、ラストメッセージの意味を考えることを取り上げています。



スカウトタウン、日々の善行、奉仕活動、宗教に触れることを積み重ねて行くことで、物の見方や考え方が変わってきました。

【支援のポイント】

ラストメッセージを読んで、一人ひとりで感想を述べ、話し合うのではなく、ラストメッセージの中で、**ポイントとなる文面**を取り上げ、**そのことをテーマ**に話し合っていく。

またポイントとなる文面は**複数箇所を示し**、そのテーマごとに話し合った結果、**何を目指し、何をしたいのかを決意**させる。

このラストメッセージを心にきざみ、さらに“**信仰奨励章**”の取得要件の取り組みを積み重ねていきます。